

平成28年9月定例会 総合計画等調査研究特別委員会委員長報告

38番 岡田 荘史でございます。

私から、総合計画等調査研究特別委員会の報告をいたします。

本委員会は、昨年10月に、人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略並びに第五次総合計画について、調査研究を行うために設置され、現在までに16回の委員会を開催しました。その他、平成28年1月に先進的な取組の視察や、2月には長野市総合計画審議会との意見交換会を実施しました。

視察において特徴的だった内容は、市長の方針が総合計画に反映しやすいように、任期に合わせて基本計画を4年とするものや、毎年度実施される市民意識調査に基づき、総合計画の重点化施策を決定しているというものがありました。

審議会との意見交換会では、10年後の長野市の将来像についてというテーマのもと、長野市らしさや様々な課題について意見を交換することができました。

そして、4月25日には第五次長野市総合計画について、次の3点からなる提言を行いました。

1点目は、国立社会保障・人口問題研究所の出した推計によると、2060年には本市でも25万人を割り込むことが見込まれている中、人口減少対策に係る取組を柱に、子供や若者を初め市民の様々な意見を生かし、地域ごとに特色あるまちづくりを推進する取組を重点化すること。

2点目は、正確な現状分析と適切な指標の設定などにより、計画の実効性を担保すること。

3点目は、第四次総合計画では、基本構想10年、基本計画5年の計画期間としていましたが、市民の声や時代の変化に迅速に対応できるよう計画期間等を再考することです。

提言後の委員会では、審議会で検討されている計画案について、提言の内容がどのように反映されているかを調査しました。

提言の1点目については、第五次総合計画では、分野横断的な計画推進テーマと

して、「活力あるまちづくりー一定住人口の増加に向けて」、「賑わいあるまちづくりー交流人口の増加に向けて」、「魅力ある地域づくりー暮らし続けられる環境づくりに向けて」が示されており、最重要課題である人口減少対策を中心にまちづくりを進めるためのテーマが設定されていることを確認しました。

また、子供や若者を初め市民の様々な意見を生かすために、パブリックコメントに加えて、今までにない取組として、「(仮称)ながの未来カフェ」が検討されております。お茶を飲みながら、市民が気軽に意見を言える機会を作るというものでありますが、市内の高校生を初め多くの若者に参加していただき、様々な意見が交わされることを期待しています。

提言の2点目については、新たな取組として、現在、(仮称)幸せ実感モニターを募集しています。6年にわたり同じ方にアンケートを継続していただくという、モニター制度です。まちづくりアンケートとの併用で、市民意識の指標の精度が高まることを期待しています。

また、統計指標においては、計画を推進した成果を検証するに十分ではないと感じるものもあるので、できるだけ正確に成果を測定できる指標の設定を要望いたしました。

提言の3点目については、計画期間は、第四次総合計画同様に基本構想10年、基本計画5年としていますが、目まぐるしく変化する社会経済情勢に柔軟かつ迅速に対応するため、必要に応じて計画を見直すということが明記される予定であることを確認しております。

最後に、第五次総合計画は、平成29年度からの計画開始に向けてこれから大詰めの段階に入るわけですが、10年後の将来をしっかりと見据えて、長野市らしさを十分に発揮し、一人一人が幸せを実感できる計画が策定されること、更に総合計画が市民全体に広く浸透することを期待しております。

以上で報告を終わります。